

# 発達障害 学生に必要な支援は

## 新潟大サポートルームで聞く



### 配慮と理解で社会へ橋渡し

大学でうまくコミュニケーションがとれない、忘れっぽくて単位を落としてしまう。発達障害などで、そんな悩みを抱える大学生が増えている。どんなことに困り、必要な支援は何なのか。新潟大が6年前から開設するサポートルームに通う学生に聞いた。

「1、2限の授業、さぼりがちなんですよね」新潟市西区の新潟大学五ノ風キャンパスの一室「特別修学サポートルーム」。2年生の女性(21)が担当教員の原田早春さん(27)にそう報告した。原田さんは「朝起きられない

担当教員の原田早春さんに近況を報告する女性(手前) 新潟大特別修学サポートルーム

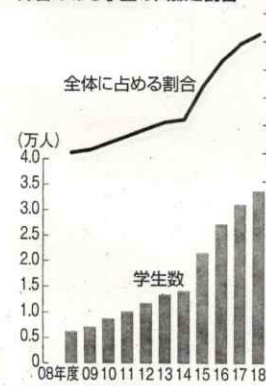
「読み障害」も抱える。勉強は嫌いではなかったが、聞いた情報を理解するのが苦手で、試験を解くのも時間がかかる。新潟大の入試では、大学側の「合理的配慮」として試験時間が1.3倍になった。入学後にはサポートルームに定期的に通い、授業の際は重要な連絡をメモで渡してもらったり、録画させ

てもらったりといった個別の配慮を受けている。それでも、つらい思いをすることはある。入学直後、3人グループでリポートをまとめ、発表することに。ほかの2人には教員を通じて障害のことを伝えていたが、言われたことを聞き漏らし、何をしていたかわからずにいる。「なんでもわからないの？」と責められた。結局、大部分を2人に任せることになり、その間は毎晩のように泣いた。「高校まであまり意識していなかったけど、話し合っ



て何かを決めるのが本当に苦手だとわかった」と振り返った。振系学部4年の男性(20)は小さい頃に自閉症と診断され、特別支援学校にも通った。暗記が得意で、私立の進学校を経て現役で新潟大に入学した。

障害のある学生の人数と割合



日本学生支援機構まとめ。大学、短期大学、高等専門学校

多く、1年の時にはリポートの存在を忘れるなどの失敗もあった。サポートルームで提出物を出したか確認してもらったり、何と進級してきたか、取得単位は足りるかなど、卒業後の進路は決まっていないう。修士2年の女性(24)も進路未定だ。小さい頃から意識疎通や感情のコントロールが苦手。大学に入って、友人はできず、主な話し相手はサポートルームの担当教員という。

## 10年で20倍対応策さまざま

日本学生支援機構によると、大学や短大、高専で障害のある学生は年々増えていく。08年は6235人(全体の0.2%)だった。18年は3万3812人(同1.05%)に上った。中でも発達障害は08年の299人が18年は6047人と、およそ20倍になった。各地の大学が、発達障害の学生への支援を充実させている。筑波大(茨城県)は15年

**草津温泉に来たら**  
**山菜天ぷら 食べ放題**  
 十割そば、湯州横丁、銀の鈴  
 群馬県草津温泉 大東館西館1階  
 ☎0279-82-5963  
 営業時間 10:00-22:00

度から「発達障害学生支援プロジェクト」を始めた。就活やリポートの書き方などについて悩みや取り組み方を共有するグループ活動や、雑音をカットするイヤホンなどの機器貸し出しと

度には聴覚障害の学生なども含めて650人(うち発達障害44人)が増えた。元小学校教員で担当の能登宏特任教授(63)は、「支援を受けて単位を取るのはいが、スタートラインに立たせることで自立につながる。大学が社会のモデルとなり、社会でも支援が広がるのが理想」と話す。

### 英会話イーオン

2校 校址  
 日本 本  
 新潟 同  
 新潟 長  
 フリー  
 0800

いった多くのメニューを意。対象を、診断の有無にかかわらず困りごとのある学生とし、今年2月末時点で利用者は85人になった。就職の個別相談も。担当教員の佐々木銀河教授「自分の特性を理解したうえで、得意なことを生かすようなマッチングを自分自身で」という。早稲田大(東京都)も

年から、発達障害の診断ある学生のうち希望者にし、ニーズに応じて個別対応している。昨年4月時点で80人が利用している。長岡技術科学大(長

(高濱行)